Call 公募	HORIZON-CL3-2026-01-BM-02
Project	**Accessible and available travel facilitation** HORIZON-CL3-2026-01-BM-02
Topic description トピックの説明	期待される成果： 本プロジェクトの成果は、以下の期待される成果の**一部またはすべて**に寄与することが期待される： ● 統合的なアプローチにより、信頼性が高く、安全で、より利用しやすい自動化されたシームレスな支援体制を、旅行、国境検問所（BCP）を通じた国境越え、および／またはビザ手続きにおいて整備し、偏見のリスクを最小限に抑え、デジタル格差を最小限に抑えることで、すべての旅行者が利用できるようにすること； ● あらゆる状況や国境管理拠点（BCP）において、欧州のすべての国境管理担当者が採用可能な、統一されたアプローチに基づく解決策； ● 国境管理に携わる実務担当者の業務負担を軽減し、安全性、ユーザー体験、および業務効率を向上させた。 スコープ： EU の対外国境にある国境検問所（BCP）における移動および国境越えの円滑化は、手続きや規制の枠組みの更新、そして革新的な欧州の技術のおかげで、これまで進展を遂げてきただけでなく、現在もさらに進展を続けている。自動国境管理（ABC）ゲートから「ゲートレス」ソリューションや「シームレスな移動」に至るまで、出入国管理システム（EES）や電子渡航・情報認証システム（ETIAS）といったシステム、さらにはデジタル渡航証明書やデジタル ID の普及など、ヨーロッパは世界で最も先進的かつ安全で利便性の高い国境検査システムを備えている。 旅行円滑化措置は、依然として本来あるべき公平で、包摂的かつ利用しやすいものとはなっていない。いくつかの技術的な例外が存在するため、例えば、家族やその他の同行者グループ、障害者や移動に制限のある方、あるいはデジタルリテラシーが比較的低い方々が、旅行や国境越えを円滑にするための措置をスムーズに利用することが困難になっている。これは、旅行支援システムにおける機能上のギャップであり、旅行者にとっての公平なアクセシビリティと利用可能性、およびシステム自体の性能と効率の両方に影響を及ぼしている。旅行支援システムは、すべての旅行者が利用しやすい状態を維持しつつ、セキュリティと円滑な乗客の流れの両方を確保すべきである。 一方で、技術的なシステムや手続きについては、適用される状況や BCP（事業継続計画）によって違いが生じる可能性がある。これは、欧州統合国境管理のパフォーマンスやユーザー体験にとって制約となる恐れがあり、特に、欧州国境・沿岸警備庁（EBCGA）の常設部隊が、欧州国境・沿岸警備隊（EBCG）の各国構成員に対してより広範な支援を行うという観点からは、その懸念がより顕著である。 EBCG 能力ロードマップによれば、合法的な国境通過は可能な限り迅速かつ簡便であるべきであり、同時に、正当な目的を持つ者およびその者が携行する貨物の円滑な通過を可能にするべきである。 このテーマの下で資金提供を受けるイノベーション活動では、先進的なシームレスな移動や国境越え、および／またはビザ手続きのための解決策を開発・検証する。その際、基本的人権を保護・促進し、偏見のリスクを最小限に抑え、年齢、性別、ジェンダー、障害、身体的またはデジタル上の能力にかかわらず、すべての旅行者が制限を受けずに、あるいは制限を最小限に抑えて利用できるようにする。旅行支援策に関して、差別や物理的・デジタル格差が生じる可能性を最小限に抑えるためには、解決策は包括的かつ利用しやすいものでなければならない。さらに、これらの解決策については、あらゆる状況および国境管理拠点（BCP）において、欧州のすべての国境管理担当者が同様のアプローチで運用できるよう、試験を行うべきである。

	提案される解決策には、革新的な技術、革新的なプロセス、革新的な知識、および／またはそれらの組み合わせが含まれる。解決策には、旅行者の権利を侵害することなく、どの手続き、技術、またはデータベースを利用できるかをエンドユーザー（国境検査担当者）に提案する、自動化された意思決定支援システムが含まれるべきである。また、ソリューションには、データ保護を強化するため、共有されるデータを最小限に抑える（例えば、照合スコアに限定するなど）生体認証照合機能を統合し、必要に応じてさらに発展させるべきである。 このテーマの下で提出される提案は、欧州国境・沿岸警備隊およびその機関（Frontex）、ならびに「自由・安全・正義の領域における大規模 IT システムの運用管理に関する欧州連合機関（eu-LISA）」の優先事項に対応することが期待される。これは、EBCG 能力ロードマップを基にした要件定義および設計段階から開始すべきであり、プロジェクトの実施段階における各機関との連携も含まれる。提案書の作成段階において、フロンテックスおよび eu-LISA は、プロジェクト提案書に関するいかなる指針も提供せず、またその作成に一切関与しない。提案書を作成する際には、フロンテックスおよび eu-LISA が、国境・税関・沿岸警備関係機関における将来のイノベーション導入を促進することを目的として、プロジェクトの実施時にパイロット事業や実証実験を視察する可能性があることを考慮し、その対応を想定しておく必要がある。関連するセキュリティ実務者による積極的な関与とタイムリーなフィードバックを確保するため、提案書には、プロジェクトに関与する実務者によって実施される、プロジェクトの中間成果の評価からなる中間成果物を盛り込むべきである。 提案の具体的な範囲によっては、税関当局の参加を歓迎する。 技術成熟度レベル - 完了したプロジェクトにおいて期待される技術成熟度レベル 本プロジェクトの終了までに、各活動において TRL 6～7 の達成が見込まれている（一般付属書 B を参照）。